

始良・伊佐地域 地域振興の取組方針〈改訂版〉

1 「始良・伊佐地域 地域振興の取組方針〈改訂版〉」の主な内容

(1) 地域を愛し世界に通用する人材の育成，文化・スポーツの振興

- ・ 当地域は「みやまコンセール」や「霧島アートの森」等の文教施設や、国宝に指定された霧島神宮や日本遺産の蒲生麓など、地域個性豊かな文化資源を有している。
- ・ 伊佐市及び湧水町の川内川にはカヌー競技場が整備されている。

- ① 子どもの頃から「みやまコンセール」や「霧島アートの森」等の身近にある文教施設等を生かし、多様な文化芸術の鑑賞や体験を提供するなど、良質で多様な文化芸術等に親しめる機会を数多く持てる環境づくりを推進する。
- ② 国宝に指定された霧島神宮や日本遺産の蒲生麓、霧島国際音楽祭など、地域固有の豊かな文化資源を活用して郷土に誇りを持つ心を醸成するとともに、地域ゆかりの芸術作品や史跡、郷土芸能、伝統行事、郷土料理等の地域の歴史・文化の保存・継承や観光資源としての情報発信、これらを生かした地域づくりの推進に取り組む。
- ③ 「かごしま国体・かごしま大会」の競技会場として利用される湧水町のカヌー競技場は、翌年の佐賀県での国スポのカヌー競技場としても利用されることとされており、カヌーを通じた佐賀県との交流を推進する。



(2) 脱炭素社会の実現と豊かな自然との共生

- ・ 当地域には霧島錦江湾国立公園や「県民の森」など豊かな自然に恵まれ、環境教育を実践しているNPO等の活動も活発である。

- ① NPOとの協働・連携により、地域一体となって、天降川、別府川、思川や錦江湾奥最大の重富干潟などの水辺環境の保全活動を推進する。
- ② 錦江湾や森林資源などの豊かな自然とふれあう体験学習を積極的に推進する。
- ③ 「県民の森」を核としたエコ・ツーリズムや豊かな自然環境を生かしたグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムなどを促進する。

(3) 快適な生活環境の向上と世界につながる県土の創造

- ・ 鹿児島空港と県内各地とのアクセスの向上は重要であり、隣接する振興局との連携を図りつつ、早急に整備することが求められている。

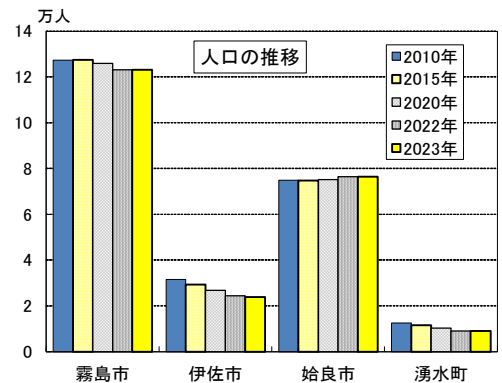
- ① 九州の南の玄関口である鹿児島空港の利便性を高めるため、国道504号の北薩横断道路・溝辺道路、西光寺拡幅、福沢工区等の整備を進める。
- ② 鹿児島空港から県内主要観光地である霧島神宮や隣県宮崎にまで通ずる国道223号では、湯之谷拡幅等の整備に取り組む。



国道504号西光寺拡幅（施工中）

(4) 個性を生かした地域づくりと移住・交流の促進

・ 地域の中山間地域等では人口減少・少子高齢化等が進んでおり、地域の個性を生かした共生・協働の地域社会づくりや移住・交流の促進が必要である。



- ① 地域に増えつつある空き家を、移住定住や地域の交流施設等に活用する取組を促進する。
- ② 地域おこし協力隊制度を活用する市町の取組を支援するとともに、隊員のニーズに応じた研修会の開催などの取組により、効果的な活動や任期終了後の定着を促進する。
- ③ 地域振興局事業の協働化を進め、地域コミュニティ、NPO、企業などがそれぞれの特性を生かし、役割を最大限に発揮しながら地域課題の解決等に主体的に取り組む仕組みづくりを促進する。

(5) 農林水産業の「稼ぐ力」の向上

・ 当地域では稲作(伊佐市・湧水町)、野菜・茶等の有機農業(始良市・霧島市)が盛んなほか、2022年10月に開催された全国和牛能力共進会では管内の畜産農家が内閣総理大臣賞を受賞した。

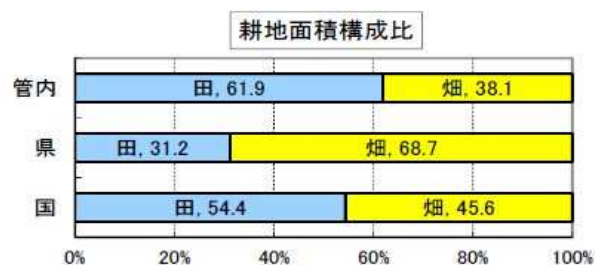
・ 木質バイオマス発電所や大型木材加工施設などが立地しており、今後、木材需要の拡大が見込まれる。

【参考】 耕地面積構成比 (単位: %)

区分	田	畑
管内	61.9	38.1
県	31.2	68.7
国	54.4	45.6

資料：第68次九州農林水産統計年報

構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とならないことがある。



- ① 「伊佐米」, 「かごしま湧水米」や「霧島茶」等をはじめとする地域農産物のブランド力向上に向けた取組を関係機関・団体一体となって展開する。
- ② 県内有機農業の先進地として、有機農業技術の普及や野菜、茶などの有機JAS認証の取得に向けた取組を支援する。
- ③ 第12回全国和牛能力共進会の開催を契機として、2020年2月に設立された「始(あい)♥LOVE(らぶ)和牛女子」の活動を支援するとともに、「和牛日本一」の鹿児島黒牛に関する情報発信に努める。
- ④ 木質バイオマスなどの安定した木材需要に加え、大型木材加工施設の新たな稼働に対応するため、森林施業の集約化、林道の整備、高性能林業機械の導入などにより、地域材の安定的な供給体制の構築を図る。

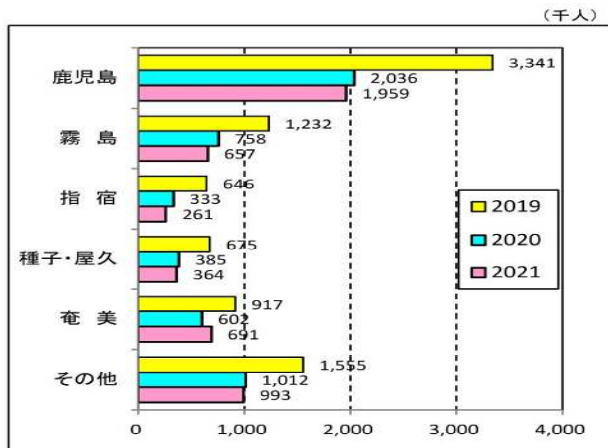


第12回全共での「始♥LOVE和牛女子」の活動

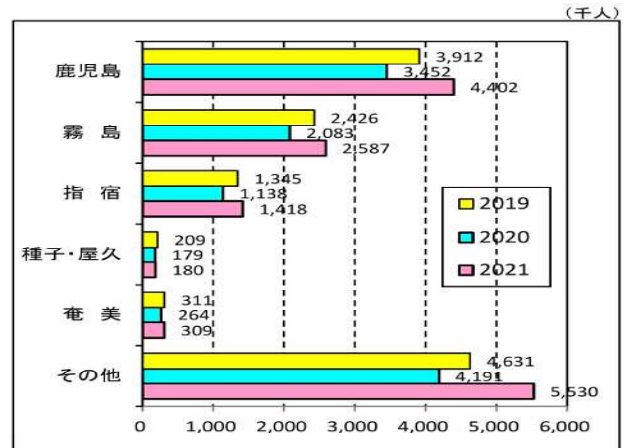
(6) 観光の「稼ぐ力」の向上

- ・ 当地域は我が国で最初の国立公園の一つである霧島錦江湾国立公園などの豊かな自然や、国宝に指定された霧島神宮などの文化資源、多数の温泉など豊富な観光資源に恵まれている。
- ・ JR肥薩線は2020年7月の豪雨災害で吉松駅以北は不通であり、利用促進と沿線の活性化が必要である。

地区別・年別 宿泊者数



地区別・年別 日帰り客数



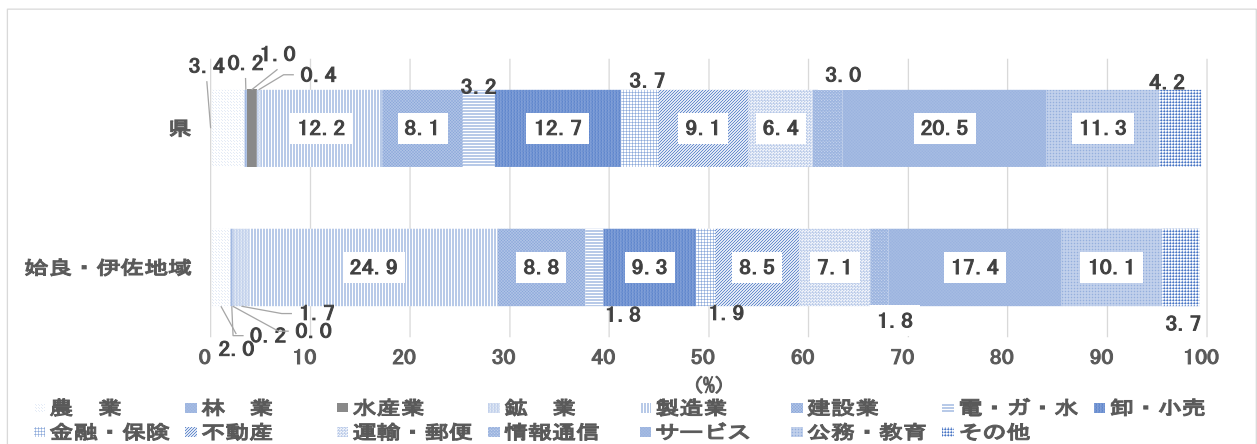
- ① 国内外における地域の認知度向上を図るため、インターネットやSNS等を活用して、PR動画等を含めた多言語による情報発信を行い、効果的かつ持続的なPRを展開する。
- ② 鹿児島空港や各種交通機関から観光地までの二次交通問題を解消するため、市町や関係機関と協力しながら、eバイクやデジタル技術を用いたMaaS等の導入を検討する。
- ③ 鹿児島空港でイベント等を行うなど、空港を地域情報の発信の場として積極的に活用していく。
- ④ 霧島錦江湾国立公園などの豊かな自然、ジオパークの美しい景観、豊富な温泉、安心・安全な「地元の食材」などの地域資源を活用し、長期滞在も可能な世界に通用するリゾート地の形成を図る。
- ⑤ 地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、トレッキングやグランピングなど自然や環境、健康・癒やしなどをテーマとするツーリズムや農山漁村の地域資源を生かした体験活動を提供するグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムなどの取組を促進する。
- ⑥ 鹿児島空港や各種交通機関が集積している地域の利点を生かし、市町と協力しながら、各観光資源を周遊するサイクルツーリズムを推進する。
- ⑦ 移住者や地域の関係者と協力しながら、地域ならではの魅力ある資源の再発見や資源に対するストーリー性を持たせるなどの磨き上げを行い、一人ひとりが地域の自然や文化に親しみ、郷土の豊かな魅力を知る機会となるマイクロツーリズムを促進する。
- ⑧ 観光客の多様なニーズに対応した観光施設や宿泊施設の整備を促進する。

- ⑨ JR九州や関係市町・地域住民と協力し、築100年を超える木造駅舎である嘉例川駅や大隅横川駅など貴重な地域資源を有するJR肥薩線を活用・利用した地域振興及び観光振興に関する取組を推進する。
- ⑩ 関係団体との連携を図りながら、地域の魅力を伝えるガイドや通訳案内士など観光を担う人材や組織の育成、国内外からの誘客促進を図る。



(7) 企業の「稼ぐ力」の向上

- ・ 当地域には電子関連企業を中心に製造業が集積しており、産業別総生産額は製造業が24.9%と、県構成比の12.2%を大きく上回っている。
- ・ 当地域には、県工業技術センターや工業系の大学、工業高等専門学校などの研究機関や教育機関が立地している。
- ・ 半導体関連企業では工場が増設されているが、中小製造業を中心に人材不足が顕在化してきており、地域内の教育機関等と連携した人材の確保・育成が重要となっている。



- ① 県工業技術センターなどの公設試験研究機関や大学・工業高等専門学校などの教育機関、産業支援機関等と連携した支援により、企業が有する独自の技術やノウハウ、温泉、黒酢、シラスなどの地域特有の資源や風土などの強みを生かした研究開発・製品開発等を推進し、「オンリーワン」「ナンバーワン」「ニッチトップ」企業の育成を図る。
- ② 恵まれた自然環境や充実した交通基盤(空港・高速道路)など、優位性をPRした企業誘致活動を市町や関係団体等と一体となって展開する。
- ③ 大学、工業高等専門学校、産業支援機関等が連携して次世代の産業を担う技術者等の育成を推進する。
- ④ 早い段階から、学生やその保護者等に対し、地域で働き暮らすことの魅力発信や地元で働くことの意義等を啓発するとともに、様々な地元企業の魅力を発信することで、地元企業を認知してもらい、若年者の地域定着やUターンによる人材確保及び県外からの人材流入を図る。

※ 「ミッドかごしま始良・伊佐」について

第1回「始良・伊佐地域振興の取組方針」に係る地域懇談会において、委員から、県央に位置する始良・伊佐地域の10年後の目標とすべき姿として「ミッドかごしま」というキーワードが提案された。

それに始良・伊佐を加えた「ミッドかごしま始良・伊佐」を地域振興の取組方針のキャッチフレーズとし、取組方針の周知や取組の推進に活用する。

また、取組方針の改訂後、鹿児島工業高等専門学校と連携して同校生徒のデザインによるロゴマークを作成し、始良・伊佐地域振興局で作成する観光パンフレット等の印刷物やホームページ、Facebook等に掲載し、始良・伊佐地域の情報発信等に活用するとともに、地域の一体感の醸成を図る。

2 改訂に向けたこれまでの取組等

取組	内容	年 月 日
地域懇談会（第1回）	・ビジョン改訂版及び取組方針骨子案等についての説明、意見交換	令和4年7月22日
（第2回）	・取組方針（改訂版）素案の説明、意見聴取	10月17日
行政懇話会（第1回）	・ビジョン改訂版及び取組方針骨子案等についての説明、意見交換	7月11日
（第2回）	・取組方針の見直しに係る状況説明、意見聴取（各市町を訪問）	11月1日 ～11月28日
始良・伊佐地域農政推進協議会（幹事会）	・農業の稼ぐ力の向上において、改善が必要な点などについて意見聴取（書面にて照会）	6月29日
始良・伊佐地域観光連絡協議会	・観光面において、当地域が優れている（伸ばすべき）点や改善が必要な点などについて意見聴取	5月13日
局内若手職員によるワーキング・グループ（計4回）	・始良・伊佐地域の魅力・課題、目指す姿について意見交換 ・管内の市町職員及び地域おこし協力隊との意見交換	7月25日 ～8月5日
管内市町への素案に対する意見照会	・取組方針（改訂版）素案に対する意見聴取	10月25日 ～11月15日
懇談会委員、管内市町、議員への情報提供	・取組方針（改訂版）最終案の送付（情報提供）	令和5年1月23日

- (1) 地域懇談会の委員構成においては、「稼ぐ力の向上」や「文化」、「環境」、「デジタル」など、各分野の有識者や地域で活躍されている方々を幅広く選定し、意見を聴取した。
- (2) 各市町との行政懇話会においては、各市町の総合計画等における重点施策や地域課題についての意見聴取を行うとともに、素案に対する意見照会を行った。
- (3) 局内若手職員によるワーキング・グループ（4回）を開催し、SWOT分析を行い地域の魅力や課題を抽出するとともに、うち1回は管内の市町職員及び地域おこし協力隊と意見交換し、情報発信力の強化・二次交通対策など若者や移住者の視点からの地域振興に関する意見を聴取した。
- (4) 改訂後の取組方針の周知や管内の一体感醸成を図るため、管内機関と連携して広報するとともに、自治会、NPO法人、ボランティア団体等が実施する取組方針に沿った事業に対し補助を行うこととした。